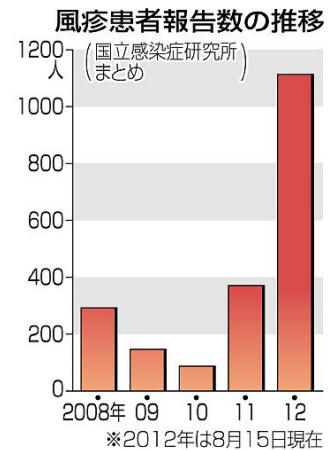


# 風疹について

風疹患者は 2011 年よりが急増しており、2013 年 5 月 15 日の報告数は 6725 人となり、2012 年 1 年間の 2 倍以上となっています。

首都圏と近畿地方に多く、急速に全国に広がっています。報告患者の 9 割が成人であり、男性が女性の 3.5 倍である。男性は 20～40 代に多く、女性は 20 代に多いです。



## なぜ男性に多いの？

風疹の予防政策は、先天性風疹症候群を防ぐことに重点が置かれたため、1977 年から女子中学生を対象にワクチン接種を行っていました。男子全員に接種するようになったのは 1995 年です。

そのため、現在 30 代後半以上の男性は抗体を保有していない人が多いと思われます。

## 風疹とは

感染から 14～21 日の潜伏期間を経て発症します。紅い発疹、軽い発熱、リンパ節の腫脹の 3 つの主な症状を特徴とします。リンパ節の腫脹がまず現れ、その後、発疹と軽度の発熱が現れます。リンパ節の腫脹は 3～6 週間で消失します。発疹は紅く、小さく、皮膚面より隆起した斑状丘疹で顔、耳の後ろなどに現れ、その後頸部、躯幹、四肢へと広がり、この順で発疹は消失し、顔などの発疹は 3 日前後で消失するために、「三日はしか」と呼ばれることもあります。発熱は、発疹と前後して現れ、2～3 日で解熱します。また、風疹にかかるとまれに脳炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの軽視できない合併症をおこすことがあります。



## 大人の風疹



風疹は小児の場合通常あまり重くない病気ですが、妊婦、特に妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、**先天性風疹症候群**の赤ちゃんが生まれる可能性があります。大人が感染した場合は発熱や発疹の期間が小児に比べて長く、関節痛がひどいことがあり、一週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。

## 先天性風疹症候群

妊婦とくに、妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障がいを**先天性風疹症候群**といいます。

妊娠1か月以内に風疹にかかると、約50%、妊娠3か月以内の場合は約20%の確率で先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれます。妊娠6か月をすぎれば、先天性風疹症候群はおこらなくなります。

## 成人の予防接種

予防接種をうけたことが記録で確認されていない場合、男女ともなるべく早く接種することをお勧めします。血液検査で十分高い抗体価があることが確認された場合にはこの必要はありません。

妊娠出産年齢の女性に風疹ワクチンを接種する場合には、妊娠していない時期（生理中またはその直後がより確実）にワクチン接種を行い、その後2ヶ月間の避妊が必要です。

また、成人男性もこれまで風疹予防接種を受けたことがない場合は、なるべく早く予防接種をうけることをお勧めします。平成23年度の感染症流行予測調査によると、30代から50代前半の男性の5人に1人は風疹の免疫を持っていませんでした。20代の男性は10人に1人は風疹の免疫を持っていませんでした。



**風疹にかかったことがあるといわれているが、予**

## 防接種は必要？

すでに風疹にかかったとの記憶のある人達に血液検査を行ったところ、約半分は記憶違い、または風疹に似た他の病気にかかっていたという調査結果もあります。風疹にかかったことが血液検査などで確かめられていない場合（風疹にかかった記憶だけの場合や、医療機関を受診していても症状だけからの診断で、診断が血液検査によって確認されていない場合など）は必ずしも信頼できません。これまで風疹の予防接種をうけたことがないのなら、なるべく早く予防接種をうけることをお勧めします。



## 日常生活での予防方法

風疹は効果的な治療法が無いので、ワクチンによる予防が最も重要です。

日常生活のなかでの予防は、通常のウィルス性の風邪の予防と同じで  
**うがい・手洗い**をこまめにする事。

外出はなるべく控え、**マスクを着用**。

花粉の予防などの際に使用する抗菌や立体で隙間の少ないものが効果的です。

（息苦しくて鼻を出してマスクをしている方をたまに見かけますが効果がありませんのでご注意を！）

家族みんなで予防するのが望ましいです。

